



表紙 「ののさま」

かちす まいり [慈光幼稚園]

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2020年11月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

「ネットワークナイン」班 編集員

総編集長：本田 彰一（東京1）

チーフ：朝倉 俊隆（東京5）

佐々木誠信（東京4） 五島 大地（東京8） 中村 晃（茨城1） 大山 信敬（茨城2）

チーフ：田上 翼（茨城1）

坂東 性悦（東京2） 平松 正宣（東京3） 櫻田 純（東京6） 秦 顕生（湘南）

チーフ：鞠川 卓史（湘南）

内藤 友樹（東京1） 渡邊 尚康（東京3） 田宮 真人（東京8） 相馬 法道（茨城1）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会

〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館

TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net

ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

もくじ

特集

●03 台風19号 被災から一年

●11 法語ポスター

教区教化通信 総合調整総務会

●12 教区報恩講 企画会だより

教区教化通信 「同和」協議会

第1回

前田 義朗

●13 部落問題基礎講座を受けて

本多 暁

教区教化通信 教学館

●14 私の出遇った言葉

五島 大地

はい!こちら真宗会館です

●16 駐在日記

渡邊 誉

はい!こちら真宗会館です

●17 所員のつぶやき

金庭 順三

●19 敬弔・涌

相馬 法道

特集

台風19号 被災から一年

いま 千曲川 流域 寺院の現在



被災から5日後の長野市長沼地区の様子。泥土が道路を覆い、名産のりんごが無残にも泥に浸かってしまった。

昨年の10月、台風19号の豪雨により長野県を流れる千曲川が増水。堤防が決壊し、甚大な被害をもたらしました。浸水被害の大きかった長野市では、死者10名、重軽傷者合わせて100名、また、全壊・半壊など合わせて4085棟（長野県HPより 2020年9月18日現在）の被害が報告されています。また、真宗大谷派寺院の被害は床上浸水3カ寺、床下浸水5カ寺、2名のご門徒が亡くなられました。

堤防の決壊現場に近い長沼地区には、長野1組の寺院が7カ寺あり、以前『ネットワーク9』において取材させていただいた妙願寺（2017年8月号No325参照）・西巖寺（2019年12月号No353参照）も同地域にあり被害を受けました。

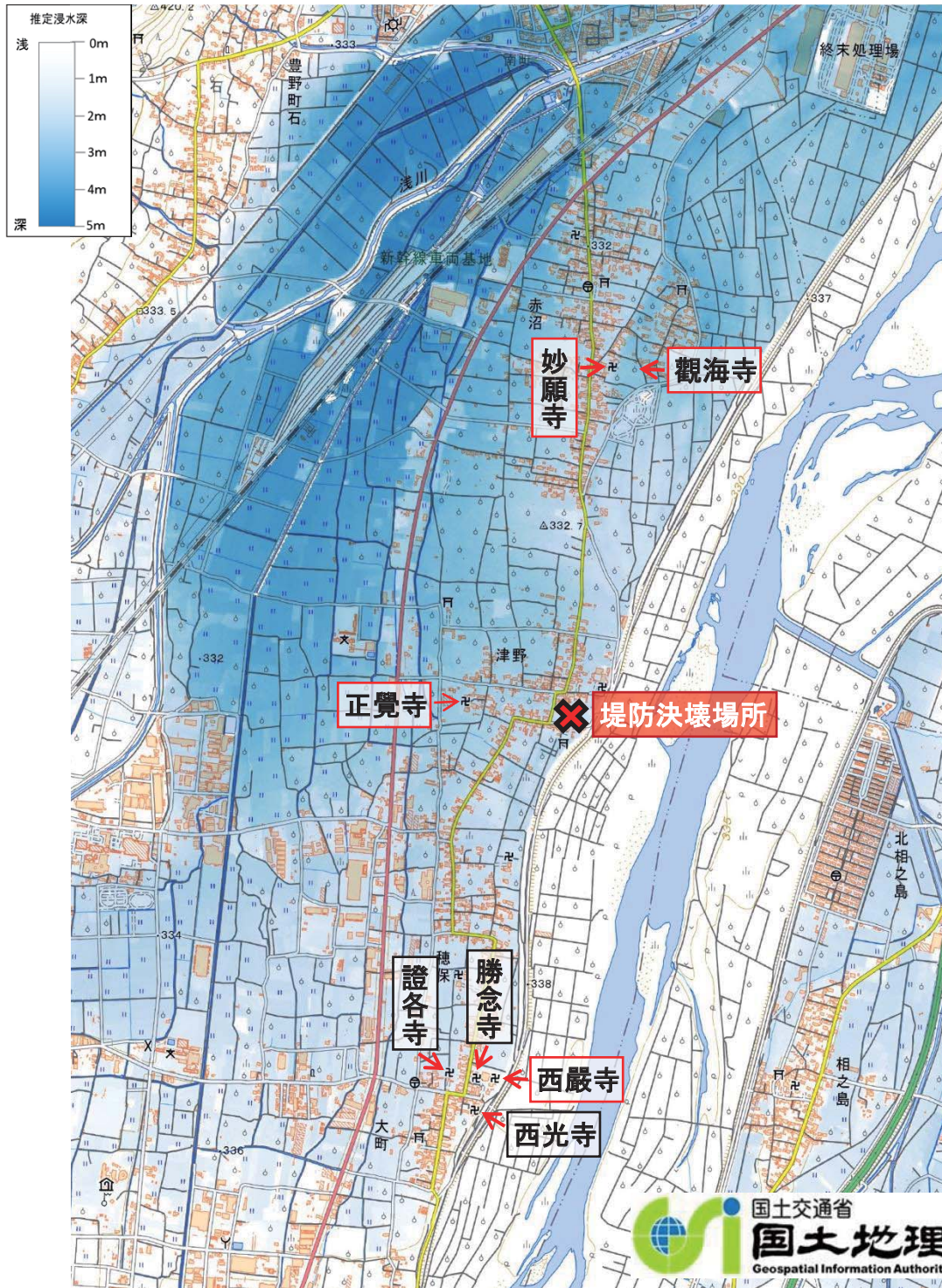
そこで、一年経った現在、特に被害の大きかった寺院の現況を電話にて取材させていただきました。また、電話でお伝えいただくには不十分なこともあり、随意、寄稿していただきました。

長野1組以外の地域においても、被災された寺院・ご門徒には改めて、お見舞いを申し上げますとともに、一日も早く開法の方が回復されることを願っております。（取材・鞠川班）

【暫定】浸水推定段彩図

- 寺 …取材した長野1組寺院
- 寺 …長野1組寺院

＜速報＞令和元年台風19号に伴う大雨による浸水推定段彩図(千曲川3)
 ※10月13日13時までの情報と国土地理院が撮影した空中写真及び標高データを用いて、浸水範囲における水深を算出して深さごとに色別に表現した地図です。実際に浸水のあった範囲でも把握できていない部分、浸水していない範囲でも浸水範囲として表示されている部分があります。
 (2019年10月15日16時作成)



観海寺



長野県長野市
大字赤沼2776

被災状況



本堂・庫裡共に床上浸水し、泥水が流入。



→ 泥をかき出す作業が連日続いた

電話取材



青柳 幸一 住職

観海寺の周りにはリング畑が多く、農繁期を避けた3月初旬に報恩講をお勤めしてきましたが、今年は断念せざるを得ませんでした。当寺院は「どのような方にも手を合わせて頂

けるように」という願いのもと、地域の方々がお茶を飲みながら語り合い、交流を深める寄り合いの場として開かれてきたお寺です。

しかし被災後、総代さんや役員さん以外の方々とほとんどお話ができていない状況です。近隣の様子を見ると、日中は農作業のために戻って来ている人が見受けられますが、夜は辺りが真っ暗。未だに多くの方がご自宅に戻れていないのかも知れません。

この度の被災により、江戸末期に建立された本堂を取り壊して、一から建て直すことになりました。一日も早く、有縁の方々が寄り合える場を復興したいと考えています。

青柳住職からの寄稿文



災害から1年になろうとしています。現在、地域におきましては徐々に復興しつつありますが、まだ以前のようになるには時間が掛かりそうです。

災害という機縁に会いまして、気付かされたことは、今まで当然のごとくに生活し、出来ていたことが出来なくなることで、今まで日常生活が送れていたことに感謝、尊さを感じています。

そして、災害に際し、多くの方々から励ましの言葉、救済への尽力をいただいたことは、人とのつながりの大切さ、感謝の思いを改めて感じさせてくださいました。

復興へ向けた今後の歩みといたしましては、災害により本堂は倒壊の危険が予想され、解体を余儀なくされました。

当寺院は所属門徒をもたない村寺として地域の方々と共に歩んできました。今後とも地域の方々と共に歩み、そして地域以外にもお寺を必要としてくださる方々がお参りいただけるお寺にしていきたく思い、本堂再建工事を進めています。

災害に際し、多くの方に助けていただけましたこと、誠に感謝しています。

合掌



↑ 以前の本堂は解体し、このたび、本堂再建工事が完了。須弥壇など内部はまだ建設途中。



→ 観海寺前の赤沼公園には、水害廃棄物が山積み(上)。現在は撤去され綺麗に(下)。完全撤去は、去年の年末までかかったようだ。

編集員所感



被災当日の朝、手袋を着けて「これだけは守らねば」と一心不乱にご本尊を母屋2階へ避難させたという青柳住職。地域社会におけるお寺の在り方が改めて問われている今、電話取材・寄稿文を通して「地域の方々と共に」と語っておられるのが非常に印象的でした。

編集員 田宮

妙願寺



長野県長野市
赤沼180

被災状況



本堂・庫裡共に床上浸水。庫裡には泥水流入。本堂は内陣の上10cmまで浸水。



→ ボランティアによる泥のかき出しと廃棄物の運び出し。

電話取材



鹿野 正明さん

現在のお寺は修復に向けて設計協議中であり、床板まで外してある状況です。

編集員所感



法務に関しては、無事に残った法衣を使っ
てほそぼそと行っている状況ですが、毎年3
月に勤められている報恩講は執り行なわない
予定です。
近所のご門徒さんは30名〜40名の方が被
害にあつており、ほとんどの方は元の住所に
は戻ってきておらず、避難所や仮設住宅にて
生活している状況です。

現在お寺は無住となっており、また坊守で
ある鹿野達子さんは仮設住宅で生活している
とのことで、候補衆徒である鹿野正明さんに
取材させていただきました。
私がお預かりしているお寺の本堂も東日本
大震災によつて傾き、使用することができな
くなったために、本堂を再建することになり
ました。本堂を修復するために様々なことを
決めていかなければいけない苦労を知ってい
るだけに、県庁に勤めながら法務をされ、本
堂修復に向けて尽力されている鹿野正明さん
のご苦労が取材によつて伝わってきた気がし
ます。

編集員 相馬

→ 現在の本堂。修復に向けて一歩ずつ。



→ 水害当時の本堂と庫裡。本堂外陣の畳が浮いてしまっている。



西厳寺



長野県長野市大町99

被災状況



境内・墓地共に浸水。高いところで60cmの浸水。太鼓楼（左写真手前）が床下浸水。



→ 泥水は、2、3日引かなかったという。

電話取材



成田 満 住職

自坊に関しては比較的被害は軽微だったので、災害ボランティアセンターの復興作業の地域拠点として境内を提供できました。しかし、決壊した地元の集落では、解体して更地になった住居もあり、今後、更地になる場所もあるという現状です。そのような光景を見

るたび胸が痛みます。修復がまだ済んでいない箇所も多く、門徒さんにも影響が出ています。自坊は千曲川のすぐ傍なので、改めて怖さを感じ、今でも雨が降ると不安になります。本願寺第8世・蓮如上人のご旧跡寺院として地域の人々に親しまれ、古きより勤められてきた『蓮如忌』（毎年4月25日勤修）も今年には中止となり、草餅を配る風習も、新型コロナウイルス感染症拡大も相まって取りやめとなりました。それでも、自宅で草餅を食べられたという方もいました。

成田 麗子准坊守からの寄稿文



今までに経験のない災害に見舞われた。町は惨憺たるもの。泥やゴミに汚れた人々の殺気ともいえる空気が立ち込める道の真ん中で、自分の無力さを思い知らされ立ち尽くす。こんな時に寺は何ができるのか。

泥だらけの格好のまま被災したご門徒が寺へ飛び込んで来た。「お内仏がだめになっちゃいました。どうしたらいいですか」と言われた。まだ家の中は泥だらけ。一階の鴨居まで浸水した家の片付けや修復は考える余地もない。それなのに被災してすぐにお内仏

を心配し、家より先に直したいと訪ねて来られたのだ。この人の為に何ができるか。被災したお内仏とお名号を、またご門徒の元に戻すにはどうしたら良いか。今現在も問い続けている。

また、教区や組の協力のもとサロンを開催し、母親達の分かちあいの場を設けた。これにはたくさんの方の協力や支援が届けられた。支援していたつもりが支援され、いつどのように立場が変わるか分からない。その中で一人のお母さんが話してくれたことが印象深い。「こんな状況の中、毎日夫婦喧嘩ばかり。何で私はここにいるのかと思う。でもそんな時は子ども会で聞いた当院さんの法話をいつも思い出している。それです。がんばってるよ」。

災害に遭い感じたことは、人々は拠り所を求めるといふこと。それは何に集うのか。仏の御教えに集うのである。数あるボランティア団体や集会があっても、それができるのは寺しかない。その時に自分は何ができるのか。それは日頃の延長線上にしかない。

災害から一年が経とうとしている。新型コロナウイルス感染拡大により人々が集う

ことが難しい状況が続く。しかし、今も拠り所を求め「集いたい」と要望がたくさん届く。厳しい世の中だからこそ、原点に帰り聞法道場として人々が集う寺にしたいと身の引き締まる思いである。そして、被災したお内仏とお名号を、元の通りご門徒へ戻したい。それが地域の復興へつながれば、こんなにうれしいことはない。



→ 蓮如忌法要で賑わう境内
(2019年4月)



← 境内脇の堤防から千曲川の河川敷を眺める。
(2019年4月)

編集員所感



地震が起きるたび、自分も東日本大震災当

時のことを思い出す。すぐにかけてくれた石材店の方々は、私が小さい頃から知ってくれている。地域の力とはみんなが、互いを思い合い、支えあって形成されているのだと、取材を通して改めて感じられた。

編集員 渡邊



【現在の長沼地区の様子】 ↗ 決壊現場付近にあった神社は流失し跡形もない。 → 被災したままの長沼支所と体育館。 ↑ 修復済みの家とこれから解体する家。目の前には公費解体が進み野原が広がる。



正覚寺



長野県長野市大字津野
字八幡412

被災状況



本堂・庫裡床上浸水・泥水流入。墓石の倒壊多数。



取材した寺院では最も被害が甚大であった。



電話取材



若槻 俊樹 住職

新型コロナウイルスが流行してからは団体のボランティアの方々にお越しいただくことが密になるという点を踏まえて、難しくなりました。法務に関しましては、最近ようやく最低限の法衣を用意することができ、セレモニーなどの会館で行っております。

若槻住職からの寄稿文



不思議なご縁に支えられて

昨年10月の台風19号の水害から1年が過ぎました。強固に思えた堤防が決壊する事など夢にも思わず、前夜のうちに避難する時も明日にはいつも通りの生活に戻るつもりでございました。

当山は、決壊箇所からわずかの距離の場所であり、境内は2m以上の高さまで水没。本堂内部でさえ、約1m浸水してしまいました。翌朝、ようやくたどり着いた境内は泥だらけで見えるも無惨な光景でした。それでも、ご本尊は被害を受けることなく、ほっとしました。

ご門徒様の多くは同じ地区の方で、同じように被災されました。また残念な事にお一人の方がお亡くなりになりました。あまりの被害の大きさにしばらくは状況を確認する事が出来ませんでした。時間が取れるようになってから各ご家庭を回らして頂いた際には、皆さんの元気な顔を見る事ができ、大変うれしくなりました。

←畳の張り替えは、

これから。



現在本堂、庫裡は床下の泥を出すため全ての床板を撤去しており、法要を行う事が出来ないのが残念でなりません。しかしこの災害を通じ多くの方に支えられている事に改めて気付かされました。私たちに向け

→↓本堂は、約1mの浸水があった。



られていた想いをしっかりと受け止め、一日も早く皆さんの抛り所として活動が出来るよう努めて行きたいと考えております。最後になりましたが、多くのボランティアの方々、長野1組を始め教区の皆さん、その他有縁の方々の力無しに今日まで来る事は出来ませんでした。本当にありがとうございました。

合掌

編集員所感



正覺寺さんに電話取材をさせて頂いて、被災に遭って一年経過した現在の状況を伺った。被災という復興という言葉と一緒に連想されることだが、そんな容易い話でないことを改めて痛感した。失ってしまったものが元に戻ることは簡単なことではない、そのことをどこか自分の生活において見落していたと思う。

今回お忙しい中取材を引き受けて下さったご住職、本当に有難うございました。

編集員 内藤



→ 運び出された畳やその他の廃棄物。



りんごが実りました！



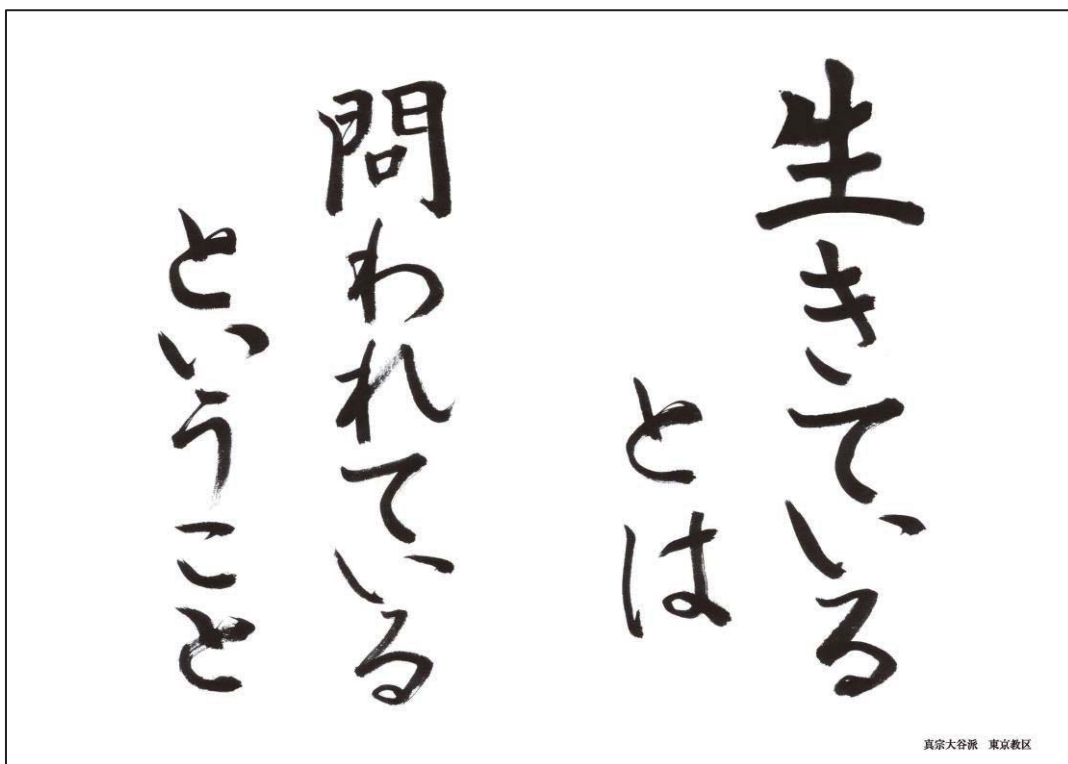
泥が堆積し、絶望的だったりんご畑。農家の方が諦めず育てた結果、例年通り実をつけ、出荷まで出来ていると西巖寺さんからの報告。無事に実ったりんごは、被災地域の方に安堵と希望を与えていることでしょう。



↑ 災害当時水没した、千曲川河川敷のりんご畑（現在）

(写真提供) 観海寺・妙願寺・西巖寺、正覺寺・同朋社会推進ネットワーク・東京教務所

今月の法語



書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

教区教化通信 総合調整総務会

教区報恩講 企画会だより

2021教区報恩講 テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」

サブテーマ 「今、であう」

例年、教区報恩講は1月26日の帰敬式を皮切りに、27日、28日の一昼夜にて厳修をしてまいりました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から教区報恩講企画会に於いて熟慮を重ねてまいりました。この度、本山より門首の御親修、新門の御直修、鍵役の御参修、ならびに堂衆の参向を行わない方針を受けて、今年度の教区報恩講厳修の方法が決定しましたのでご報告いたします。

(2020年10月現在)

1 日程、会場について

日時：2021年1月28日(木)

13時から ※一座法要

会場：東本願寺「真宗会館」講堂

2 帰敬式について

御親修・御直修・御参修・参向が行われなため中止とする。

3 参詣について

真宗会館への参詣はご遠慮いただき、勤行・法話は、YouTubeにてライブ配信をご視聴ください。

※後日、案内チラシをご寺院へお送りいたします。

4 お磨きについて

例年、日曜礼拝参詣者にご参加いただいておりますが、本年は教区報恩講企画会・真宗会館職員にて行います。

5 立花について

本年は仏華立ての公開は行いません。

6 その他中止事項

- ・ 一般出仕
- ・ 一般参詣および団体参拝
- ・ 雅楽出仕
- ・ お斎接待
- ・ 練馬駅真宗会館間の無料バス
- ・ Tokyoサンガ9の合唱
- ・ 報恩講の夕べ
- ・ 同朋社会推進ネットワークの炊出し実演
- ・ 大谷保育協会「園児絵画展」
- ・ 真宗会館書道教室書道展

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

教区教化通信 「同和」協議会

第1回 部落問題基礎講座を受けて

テーマ：「是旃陀羅」問題の初歩

講師：「人」から考える「是旃陀羅」問題

講師：中山 量純氏（解放運動推進本部 本部要員）

『是旃陀羅』における親鸞の意図

千葉組 浄眞寺 前田 義朗

『観経』の「是旃陀羅」の問題について、「身同」39号に、三つの提言があり「是旃陀羅」問題の歴史的課題・「是旃陀羅」における親鸞の意図といった教学的課題・いまでも存在する「旃陀羅」差別の実態といった、現在の課題等が指摘されている。

親鸞の意図について一例を述べたい。浄土和讃・観経意の二首から五首を読み直してみると、「仙人殺害のむくいには」アリア系民族がドラビダ民族を征服しバラモンの教えでインド社会を成立していた。バラモンが衰退し始めていた時期とは云え、国家を維持する側の阿闍世王にとって、父王はブラーフマナを殺害した階級制度を壊す大罪人である。その階級社会に囚われた差別者である阿闍世は、「耆婆月光ねんごろに 是旃陀羅とはじしめて」兩大臣は、懇切丁寧に辱めた。阿闍世は臣下に辱められたのにもかかわらず、振り上げた剣を下げたことは、阿闍世の身の内奥に

ある差別心の発露であり、それは深く重たいものであると親鸞が和讃に込めた意図が見えてくる。

現代の人権意識で『観経』を読むのではなく、ヴェーダ体制の十六国インド社会と王舎城のあり方と阿闍世・耆婆・月光その他の登場人物を通して、ヴェーダ体制の階級社会の差別が読み取れる。親鸞聖人も『観経』・『涅槃経』を通して「阿闍世の救い」だけではなく差別社会のあり方を読み込んでいた事を明らかにしたい。

川崎組 稱名寺 本多 暁

初めて総会と講座に参加し、二つの言葉を今反芻しています。まず、挨拶で教化委員長が法規総覧から引用された文章。「僧侶、寺族及び門徒は、部落差別問題をはじめとする様々な差別問題に関する正しい認識に基づき、その解決を自らの課題とし、もって同信同朋の実を挙げなければならぬ」（教化基本条

例）。

次に、中山先生が紹介された池田勇諦先生の言葉。「差別の問題はそんなのは娑婆の問題でしょう。仏法の問題ではないんじゃないですか、というお方もおいでになりますから、私はびつくりするんです。差別の問題は確かに娑婆の問題です。娑婆の問題が仏法の問題にどうなるか。仏法の問題って、はじめからどこかあるんですか。あるのは娑婆の問題だけです。その娑婆の問題から私が目覚めさせられる。そしていよいよ深められるんじゃないですか。ですから、娑婆の問題が、すべてが、私にとっては信心の問題だと言えてくるわけです」です。

これまでを振り返ると、自らの課題という認識もなく、また、聞法とは別の学習をしているという感覚も少なからずありました。そうではなく、先生の講題にもあるように、「一人」から考えるという姿勢や聴聞のあり方などを、まず今回教えていただいた気がします。

川崎組は、同和研修を年一回行っています。前年度までは教導としては旃陀羅問題を、どこから学べば良いのか、手探りで仲間と非常に苦労したことを思い出します。基礎講座では、順を追って丁寧にお話いただいたので、今年度開催できるかは他の研修も含め不透明な状況ですが、改めて今後の学習の場を考えたいと思います。

教区教化通信 教学館

私が出遇った言葉

東京8組 浄行寺 五島 大地



「体系性を求める」

今回の講義を聞いて印象に残ったのは、「真宗の体系」という言葉でした。「眞因曇彥奈羅」は、インド仏教、中国仏教の歴史にまで遡った時代から親鸞聖人が頂かれた「浄土真宗」に至るまでの教義体系を、西田先生が独自に描かれた真宗概念図です。今回の講義は西田先生が長年にわたって描かれてきた、この真宗概念図を中心に進んでいきました。

この真宗概念図は、西田先生自身が真宗門徒の一人である事を明らかにする為に、経験してきた人生の歩みを自覚化した「思想」です。つまり私たち自身においても、頂いた真宗の教えから、自分が自分自身の真宗体系を作っていくことが大切なのだというお伝えでした。

この言葉を受けて、教義を通し振り返りな

がら「真宗とは何か」と自問自答してみるのですが、結局、難しく分からなくなると悩むことを諦めて、「他方に依ることが真宗である」とあつまり片付けてしまう私であると感じました。「人間とは一言で煩惱具足の凡夫」「生きとし生けるいのちは阿弥陀仏の本願に救われる」といった言葉に、すぐ腰を落ち着けてしまうのです。しかし、「阿弥陀仏の世界にすぐに往けてしまうのは思想を怠っている証拠だ」という西田先生の声を聞いて「ああ、やっぱりそうだったのか」と確認することが出来ました。

西田先生は、なぜ自分の真宗体系を作ることが重要なのかということについて、現代の教団で説かれる教学というものが、阿弥陀仏を抜きにして、親鸞の言葉や思想を尋ねるだ

けの「親鸞止まり」になってしまっているという問題点をおっしゃっていました。インドから始まる仏教の時代背景と、親鸞聖人が生きていた時代にあった社会体制というものを照らし合わせ、さらに人間の根底にある問題とは何かを求めて真宗学問にする。ここまでして初めて体系と呼べるのだと。

現代まで立派に親鸞聖人の教えを守り続けてきた真宗教団である、と疑ってすらいなかった私と、西田先生のように長年、ご自身の経験に学ばれた真宗学の受け止めには、まだかなりの温度差を感じてしまうこともあります。しかし「体系性を求める」という今回の講義を通して、狭い価値観で真宗学を聞いているという、自分の事実を受け止めなければならぬと思います。

第16回 教学館月例研修会(オンライン開催)

2020年9月10日～11日

基調講義…眞宗原論

・阿弥陀佛と知の被限定性の

臨界点に立ちの私論・

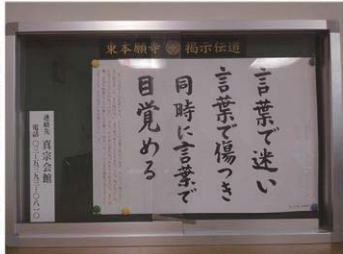
西田 眞因氏(元教学研究所有長)

特別講義…なし

「門徒宅用伝道掲示板」設置の募集

東本願寺 掲示伝道

・ 掲示板サイズ
高さ 58 cm
幅 87 cm
重さ 約 10 kg



③ お申し込み、お問い合わせは東京教務所（担当…粟生）までご連絡ください。

② 掲示板は無償で設置いたします。（教区が全額負担）

① 教区教化委員会発行の法語ポスターや同朋大会等のポスターを掲示していただきます。（掲示物は教区から送らせていただきます）

・ 内容
ご自宅の扉等をお貸しいただけるご門徒を募集いたしますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

- ・ あじわい文の補足を読むことにより本文の意味が分かると思います。掲示を担当しているものとして立ち止まって読んでいる人を見かけると嬉しく思います。
- ・ JR のバス乗り場の近くに掲示板を設置した為か、立ち止まって言葉をうつしている人、またはケータイで写している人など関心がある方が多いようです。
- ・ 自分が問われる言葉に驚きました。
- ・ 毎月の言葉を楽しみにしている人がいます。見知らずの人に声をかけられます。ポスターの言葉で毎日育てられています。
- ・ 心に残る素晴らしい言葉です。必ず立ち止まって見ていく人がいます。
- ・ 毎月 1 回取りかえていますが、楽しみにしている方がいて時々声をかけられるので、時節に合った言葉を選び選んでいます。最近、わかりやすい言葉が多くなり、私も楽しんでいます。
- ・ 歩道を散歩するご夫婦・親子連れなどがよく見ていくようです。この前はマラソン（ジョギング）中の方が写メして、帰ったら改めて読み直しますと言っていました。

上記、掲示板を設置していただいているご門徒より、「ご意見、ご感想をいただきました。一部ではございますがご紹介いたします。こちらをご参考に掲示板設置のご協力をよろしく願っています。」



はい！こちら真宗会館です

駐在日記



駐在からひとこと

最近読んだ本：島崎藤村の「夜明け前」を再読中。

東京教区駐在教導

渡邊 誉

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による自粛期間中、休日に博物館や美術館の展覧会に足を運び、直接美術品、絵画を見学に行くことをやめている。仕方がないので自宅の部屋で写真集、図録を見ている。時には自前のパソコンからインターネットで閲覧もしている。閲覧しながらたどり着いたのがフェリーチェ・ベアト（1832-1909）の写真展だ。私は2012年、一度恵比寿にある東京都写真美術館で見た。その時に買った図録は自坊の書棚の中にある。チラシもその中に挟んであるはずだ。そのチラシの表紙に大きく写っている「御高祖頭巾の女性」に惹かれたが、一番強く惹かれたのが「有馬屋敷」だ。ベアトはイタリアで生まれた。中東やインド、中国などで撮影を行ない、インド大反乱、第二次アヘン戦争といった戦場を記録する写真家として活動したほか、1863年に画家チャールズ・ワーグマンを頼り日本に赴き、幕末か

ら明治にかけて、横浜を拠点に江戸や長崎など各地で風景や風俗を撮影した。その膨大な写真の中から一枚、先ほどの写真に何故惹かれたのか特に理由といったものはない。

原題は「The Arima Sama...Yedo」。

現在の東京都港区三田中之橋の交差点付近、画像の左は筑後久留米藩有馬家上屋敷、中央に元神明宮（天祖神社）、右は筑前秋月藩黒田家上屋敷が数人の藩士とともに写されている。鮮明な画像で確認すると道の中央に3人の立ちどころはだかるような武士（一番左で菅笠を被った武士は既に刀の柄に手をかけている）。黒田家門前にも1人の武士が写されているが、拡大するとさらに奥の元神明宮の階段で凝視する武士1人、階段下からこちらに向かう武士が2人。

画像全体に緊張感が漲っている。この写真が撮られた文久三（1863）年前後は攘夷事件が頻発していた。この一枚の写真が雄弁に物語っている。

はい！こちら真宗会館です



東京宗務出張所
用務員
金庭 順三



担当：真宗会館管理
おすすめ：リンガーハット
野菜たっぷりチャンポン
(野菜をたくさん食べたい時は麺類を一緒に食べると抵抗なく食べられます)

「是梅陀羅問題」に思う

教師修練（前期）は同和問題（部落差別問題）をテーマとして7日間本山の研修道場で学び、座談会では教師の課題として考究を重ねて参りました。しかし、それ以来この問題について私はあまり積極的に語り合ったりしたことはありませんでした。

何故かと今思うと、大切な課題と云う意識はあっても自分のこととして受け止めて来なかったのではないかな。もう少し具体的に申し上げると社会的事象としてしか見ていなかったのではないかな。社会や行政の問題で、つまり方法論やプロジェクトで解決できる事のように。ですから私以外の専門的知識やキャリアを持った方に任せた方が良いでしょう。

1922年水平社創立以来のこの問題が、2015年「是梅陀羅に関する問題提起『現代の聖典学習の手引き』の訂正ならびに宗派の取組について」

と云う形で部落解放同盟広島県連合会から指摘されたのです。それを受けて真宗会館では2018年9月「是梅陀羅問題に関する教区学習会」、翌2019年9月～11月「真宗会館職員学習会」にて3回にわたってこの問題を学習・討議して参りました。

真宗会館のお朝事では正信偈・念讚海三、御和讃は繰り読みでお勤めしています。浄土和讃の「観経意」四首目になると私は一瞬言葉に詰まります。ご尊前だからでしょうか？参拝の方もいらっしゃいます、もしその中に悲しい思いをされている御同行が居られたら…。しかし平静を装って読誦を続けるのです。思いと現実の闘い合いがあります。『観経』は本願に通ずる要門です。しかし何故その金言に詰まるのか？この部分を削除してもらえたらどれほど楽か。良く表現できませんが、100年の時を経て湧き上がって来たマグマのようなものを感じます。

教区の情報をおあなたに あなたの声を教区に!!

一緒にネットワーク9を作りませんか?

編集員募集中!!

Network 9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧にご指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

ネットワーク9へのご意見・ご感想をお寄せください
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館内 東京教務所
【電話】(03)5393-0810 【ファックス】(03)5393-0814
【mail】nw9@ji-n.net



スマホやパソコンでぜひアクセスを! 東京教区のホームページ

暮らしに
じいーん



www.ji-n.net

検索 暮らしにじいーん

お寺をもっと身近に

多彩なコンテンツ

- じいーん散歩 **New**
- しんらんさまめぐり
- 法話/行事・講座
- なるほど仏事作法
- 寺院検索
- 他

じいーんのお寺も載っています!



スタッフ募集

パソコン技術は不要です

ホームページ班のメンバーは僧侶に限らず、月に約1回のペースで集い、アイデアを出し合ったり、時には現地取材もしています。ぜひ一緒に活動しませんか? (お問合せは教務所/不動まで)

9月敬弔

梅溪 喜奴乃 様

東京2組 開明寺 前坊守
 9月10日命終 85歳

新田 格浄 様

山梨組 万福寺 住職
 9月24日命終 82歳

寛光枝 様

東京2組 長善寺 前坊守
 9月27日命終 94歳

生前のご功勞を偲び、
 念仏合掌して哀悼の意を表します。



涌ゆう

編集員の随筆



2011年に起きた東日本大震災によって永泉寺の本堂は傾き、何とか補強しながら使用してきましたが、2017年に約120年の歴史を誇る前本堂は解体されました。

東日本大震災によって傾いた本堂をいつまでも使用することはできないとして、準備を進めながら2014年に本堂建設委員会を設立して本堂建設への歩みがスタートしました。本堂建設がスタートして間もなく父である前任職が体調不良のために31歳での退職交代となりました。本堂建設はスタートしていましたが、まだ何も決まっていない状況だったために門徒さんへの説明会を開き、話し合いをしながら予算を決め、大きさを決め、木造瓦葺きにする決めていきました。

31歳で退職になったばかりの私ではどんな本堂を作りたいのかという明確なイメージがなかったために、付き合ひのある設計士さんにほとんどお任せする形で建設は進んでい

きました。本堂建設が進むにつれて、私自身が決めなくてはいけないことが出てきました。それは照明の位置、扉の取手の位置、畳の縁の色などの細かいですが住職のこだわりが出る項目でした。聞かれてすぐに他のお寺を参考にしようと思いついてみたのですが、おおまかな全体像は思い出せるのですが細かい部分は思い出せず、普段いかに細かいところを気にせずしていたのだなと実感しました。

無事大工事が終わり、仏具を搬入するだけになった現在、寄付の金額もすべてを支払えるだけ集まっている状況にさせていただいたご門徒の皆様には感謝しかありません。

まだまだ年齢的にも新米な住職ですが、お寺とともに新しい本堂を120年以上残していけるように、少しずつ頑張っていきたいと思っています。

(茨城1組 永泉寺 相馬 法道)